
エミと友達～夢のツアーへご招待～

春野あずさ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

エミと友達〜夢のツアーへご招待〜

【Nコード】

N9154B

【作者名】

春野あずさ

【あらすじ】

ごく普通の平凡な少女、白田恵美。彼女は普通にみんなと同じように学校にかよっているかのように見えるがそれは実際違った。彼女の心はすでにひどくいじめで閉ざされていたのだった――

少しばかりの勇氣と
少しばかりの愛情が

私には必要だった――――。

+++++

ごく普通の女の子だった。何処にでもいる。ごく平凡な。どんな人
にでも紛れ込めるだろうそんなよわよわしい女の子だった。

その子は今小学生で。みんなと同じように学校に通っていると思わ
れたが実際のところ違ったのだ。



ごく普通の小学生の女の子。その子の名前は渡井^{わたいえみ}恵美。小学六年生。
羽鳥小学校の第六学年。

外見からみると彼女は普通の小学生。でも違うのだ。恵美の心は感
情はひどく傷つけられてきた。

恵美は学校までの通学路を黙々と歩いた。言葉を紡ぐのを閉ざし、
ただ黙々と歩いた。

学校へは行きたくない。行きたくない。行きたくない。その言葉ば
かりが恵美の心をかき回す。

嫌だ。嫌だ。行きたくない。

でも行かなくちゃならないのだ。

いつもの通いなれた道路を足元を見つめながら歩く。風は恵美の辛
さを知らないように流れていく。

嫌だ。学校は悪魔だ！地獄だ…。

恵美は無言で立ち上がり体系の大きい男子に押されながらも自らの席の前にたった。

机の表面には赤いマジックで《死ね！消えろ！醜い！白玉野郎！うざいんだよ》などの磨き上げた最低の言葉がかいてある。

それ以外にも机の表面はけられたのかぼこぼこに表面がへこんでおりしかも机の中には炭やらゴミやら得たいのしれない物体が入っている。

こいつら——！！！！

恵美は悲しみとともに怒りも湧いていたがか弱い恵美がそんな言葉を紡げるはずない。

奴らは恵美がなにもいわないからと調子に乗っていい放つ。酷い言葉。

そしてそんな時にチャイムが鳴った。

ガラガラと音がなって引き戸が開いた。

担任の田口先生が入ってくる。

「おお？なにかあったのか？」

本来ならばこの状況を教師は注意するものなのだが教師も恵美を忌み嫌っているからそんなことない。

「白田なにやってるんだ！おまえ自分の机をそんなにしたのか！？それは学校の備品なんだぞ！」

田口が恵美の肩を乱暴に掴んだ。

いつも、こうだ。

毎日がこうして始まり、毎日がこうして曖昧に——………
過ぎていくのだ……。

十十十

恵美は帰りにまでもおこるいじめから逃避していた。

走って走って走った。

まっすぐに道を走る。通いなれた通学路を走る。

先ほどまで懲りずに恵美に石や泥を投げてきた男子どもはいつのまにかいなくなっていた。

そしてもう家についていた。

「はぁ…はぁ…どうせ…家にも———」

私の居場所なんかない———………

考えなくてもあふれ出る憎悪。小さな少女の心はもう崩れそうだった。

恵美は虐待にもあっていた。

恵美には母しかない。

なぜならもう父は亡くなってしまったからだ。

母は父が亡くなったら変貌し、なにかある度に恵美を気晴らしに殴ったのだ。

恵美はそんな母に絶望していた。だから最近、部屋にこもっているのだ。

急いで靴を脱ぎ母に見つかる前に階段を駆け上がる。

そして二階の自分の部屋に入りしつかりと鍵を閉める。

「ふうー……これでひとまず安心つと…」

恵美の黒髪のポニーテールが肩に静かに掛かる。

恵美は安堵したのか、へたりと床に座り込む。

それにしても暇だ——。やることなんてない。

自分の部屋に簡素な机とタンスとお菓子と———パソコンがあるだけ……。

ん？パソコン？

恵美はパソコンでゲームをやろうと考えた。どうせやることなんてないのだ。自由に時間を使ってやる。

恵美は立ち上がりパソコンを起動させる。パソコンはういーいんというさびれたおとを放って起動する。

やがて青い画面がでくる。

恵美はインターネットでゲームを検索した。するとおかしなことに

インターネットのゲームなんていくつでもあることだろうにひとっしか出てこなかったのだ。

《あなたにあったゲーム＋あなたにあった世界に入り込める！！》ただそれだけがでてきたので恵美は疑問に思いながらもためらいなくそれをダブルクリックした。

ぶつん！故障音のようなものをあげてパソコンの画面が真っ暗になる。どうしたのだろう？故障してしまったのだろうか――？

『やっと見つけた――友達。ひとりはずっとさびしかったんだ。すこしだけでいいから――あたしと：あたしと遊んで――？』

あどけない言葉が黒画面から聞こえてくる。恵美は驚き画面を凝視する。

でも画面に変化はない。

けれど言葉は続く。

『あなたもずっと一人だったんだ――？一人はつらいよね。一人は――』

「ちょっとあんた：だれ！？」

恵美は我慢できなくなり疑問を画面にぶつけた。
すぐ返答は帰ってきた。

『あ――？あたい？あたしはうーん。コンピューターのプログラムってゆうやつ？』

「なんでしゃべれんの！？」

『わかんない。あなたとあたしは一致してるからじゃない？』

「はあ！？一致！？」

『ところであなた、こっちの世界に遊びにこない？』

「え…」

『どうせゲームで遊ぼうと思ってたんでしょ、だったらあたしであそんで？あたしずっと独りぼっちで寂しかったの』

「いいけど…」

恵美がつぶやくと画面が弾けた。

『つてことで女の子おひとり様を夢のツアーへご招待！……！』

その声は高鳴った。

恵美はいきなりめまいがして
きをうしなった。

夢のツアー？

夢ね……。いいんじゃない？

私を……私を楽しませてくれるならなんでもいい……。

「いってきます……。」

意識をなくしてもなぜかその言葉をつぶやいた
私——……。。

これからなにがあるんだろう。

なにが、待ち受けているんだろう？

未来は無限大……だ————

(後書き)

この物語は続編を作ろうと思っています。
ということでもこれからもよろしく願います。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9154b/>

エミと友達～夢のツアーへご招待～

2011年1月12日22時07分発行